

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、16～22℃台を示し、平年並みの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——月夜間とシケのため出漁日が少なかった。西彼地区では、マアジなどが1日1統当たり1トンの水揚げで、前週の50%（前年を下回った）。五島奈留地区では、マアジが1日1統当たり2トンの水揚げで前週の50%（前年並み）。北松南部地区では、マアジなどが1日1統当たり13トンの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり26kgの水揚げで、前週の32%（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり383kgの水揚げで、前週の18%（前年を上回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり20kgの水揚げで前週の59%（前年並み）。壱岐勝本地区では、1日当たり42kgの水揚げで、前週の12%（前年を下回った）。五島奈留地区では、1日1統当たり4kgの水揚げで、前週の31%（前年を下回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、今期の漁は終了した。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり364kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり232kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ブリが1日当たり139kgの水揚げで、前週の1.8倍（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（5/9～5/13の5日間）沖合イカ釣り船、船凍船は切揚休漁。赤イカは太平洋漁場向け出漁船あり。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～能登半島にかけて出漁した。鳥取県西部（沖合船）2日延5隻、総計124箱、1航海最高45箱、平均24.8箱。スルメイカを中心に漁獲、魚体は20～30入り主体。月夜、時化等で出漁日が少なく漁獲が減少した。（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧ください。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>